

## 維持透析患者の動脈硬化性病変の評価

第 49 回 日本透析医学会学術集会

丸山禎之<sup>1</sup> / 脇川 健・山田明子<sup>2</sup> / 和田 茂・佐々木敏作<sup>3</sup> (大阪掖済会病院 透析室<sup>1</sup> / 内科<sup>2</sup> / 佐々木 内科クリニック 腎センター<sup>3</sup>)

【目的】維持透析患者における動脈硬化の定量的評価について検討した。

【方法】透析患者 50 名(男 26, 女 24, 平均年齢 63.9 歳, 平均透析歴 6.6 年, DM19)を対象に formPWV

/ABI(日本コーリン)を用いて PWV, ABI, TBI を測定し, 性別, 年齢, 透析歴, DM の有無との関連を検討した。

【結果】全体平均では PWV $2088 \pm 524$ , ABI $1.09 \pm 0.20$ , TBI $0.71 \pm 0.20$  であり, DM の ABI, TBI の方が有意に低値( $P < 0.05$ )であった。また透析前後において透析後 PWV は有意に高値( $P < 0.001$ )であったが ABI には有意差はなかった。ABI, TBI 正常 29 名(58%), ABI 正常, TBI 低下( $< 0.6$ )12 名(24%), ABI 低下( $< 0.9$ ), TBI 低下 8 名(16%), ABI 低下, TBI 正常 1 名(2%)であった。

【結論】透析患者の PWV, ABI, TBI 測定にはそれぞれ一長一短があり, 動脈硬化性病変の評価には総合的に判断する必要性がある。